

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2012～2015

課題番号：24401045

研究課題名(和文) アフリカ現代社会における無形文化遺産の役割

研究課題名(英文) The role of the intangible cultural heritage in the modern african societies

研究代表者

川田 順造 (Kawada, Junzo)

神奈川大学・付置研究所・研究員

研究者番号：50107835

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,600,000円

研究成果の概要(和文)：「音楽」という明治以来の西洋語の翻訳概念ではくくれない、身体表現や太鼓等の音具と結び合わされたアフリカの豊かな「音の文化」を、現地調査に基づいて1995(平成7年)以来アフリカ人研究者も交えて行った。研究成果は被調査国の公用語英語か仏語で書き6巻を刊行、被調査国の研究機関に送って成果の還元と反批判受理を実行。ユネスコの無形文化遺産計画と協働し、消滅の危機にある音文化の存続に務めた。

研究成果の概要(英文)：We are against to determine the reality of fertile “sound cultures” of Africa by a narrow Western notion of “music” or “ethno-music”. That is why since 1995, under the leadership of Junzo KAWADA, we have conducted first-hand field researches in Africa, if possible including the researchers of the studied country, and published the results in the national language of the studied country, English or French, to render the results to the studied peoples and receive their critics. Thus we have 6 volumes of “Sound cultures of Africa”.

Our studies were realized by the Grants-in-Aid for Oversea Scientific Research. We have also collaborated with UNESCO’s project for the intangible cultural heritage.

研究分野：文化人類学

キーワード：音文化 アフリカ 無形文化遺産 文化変容 ユネスコ 政治活動 グローバル化 経済変化

1. 研究開始当初の背景

「音文化」という新しい概念のもとに、平成6年度以来アフリカの無形文化遺産の研究を続けてきた。この研究は水準の高い欧文報告書の配布を通して、国際的にも高い評価を得、ユネスコの無形文化遺産保存計画とも緊密な連携を保ってきた。消滅ないしは著しい変貌を強いられている無形文化遺産の現状を踏まえ、今回はよりきびしく、無形文化遺産存続の条件を地域社会との関係で追及するとともに、それが現代社会において果たする役割に注目する。現地人当事者の認識や主張も明らかにし、その問題点を諸地域間で比較検討する方針をとった。

2. 研究の目的

いたるところで消滅の危機に瀕している無形文化遺産の現状認識を踏まえ、無形文化遺産が現代社会において果たする役割を追求し、保存にかかわる当事者の認識や主張も明らかにし、その問題点を諸地域間で広く比較検討する。具体的には以下のような役割分担を設定する。

川田(研究代表者): 歴史伝承を文字によらない手段で表現し伝承する2つのあり方である、旧モシ王国(ブルキナファソ)の太鼓言葉と旧ダホメー王国(ベナン)の歌舞による歴史伝承が、変容しつつ現代社会で新しい展開も示す可能性、保存にかかわる当事者の意見を、ワガドゥガーとテンコドゴ、アポメーで検討する。

鈴木(研究分担者): マンデ・ポップスを担うグリオ(語り部)の音楽表現と、マンデ社会に共有されている「スンジャタ叙事詩」との関係に焦点を当てる。言語および器楽による表現形態が現代の音楽産業の中で展開するポップスにいかに関与されているのかを明らかにする。

鶴田(研究分担者): タンザニア中央部の民族ゴゴの伝統芸能 ngoma の現代的役割について検討する。ngoma とは、打楽器演奏と踊りと歌が複合したパフォーマンスを指す概念で、東アフリカで広く使われている言葉である。今回の研究では、現代ゴゴ農村社会において ngoma が果たしている社会的役割についてドドマ州の一村落を事例として検討する。

川瀬(研究分担者): エチオピア北部高原を広範に移動して歌唱を行う世襲の吟遊詩人集団ラリベラ(別称: ハミナ)の活動について、当集団の主要な活動地であるアジスアベバとゴンダールにおいて、アムハラ語の歌詞と当集団が地域社会で担う社会的役割を中心に、特に近年の変容を考慮しつつ調査する。

松平(研究協力者): ジンバブエ共和国にお

ける楽器ンビの調査を行う。ジンバブエのラメラフォンと宗教の関係を追求し、ンビラ音楽という無形文化の継承の可能性を検討する。

3. 研究の方法

以下のような計画で研究を遂行することとしていた。

本研究課題は3年計画により遂行される。

1年目は、研究代表者・研究分担者・研究協力者が、それぞれの研究課題と役割分担に従ってアフリカ各国における現地調査を行い、資料を収集する。

2年目は、国内研究会での総括を踏まえて、各メンバーが2度目の現地調査を行う。2回の研究・打合せの会合を開き、最終報告書に向けた準備を始める。

3年目は、研究成果の総括と研究報告書の作成に充てる。4回の研究会を開催、討議を行い、アフリカ現代社会における無形文化遺産の役割について総括する。欧文の報告書及び欧文による論文集の準備を進め、刊行する。

4. 研究成果

平成24年度

3年度にわたる研究計画の初年度に当たり、研究代表者、研究分担者、研究協力者とも、現地調査による資料収集を行なった。別研究代表者川田(ブルキナファソで、旧モシ王国太鼓言葉の現状)、研究分担者鈴木(コートジボワールとギニアで、語り部出身の音楽家とワールド・ミュージックの関わり)、鶴田(タンザニアで、伝統芸能の雨乞いにおける役割)、川瀬(エチオピアで、歌唱集団ラリベロッチの活動の現状)、研究協力者松平(ジンバブエで、薄板鳴音具ラメラフォン「ンビラ」を伴う憑依儀礼の社会的機能)と、各自がこれまでも行なって来た現地研究を、現代社会における役割という全体の研究課題の観点から、さらに深化させることができた。

平成25年度

昨年度までの研究の蓄積を踏まえ、今年度は当該音文化の変容の側面に研究の重点を置いた。音文化を支えている社会の、政治・宗教・生活面での変化(選挙における政党支援への要請、キリスト協会からの依頼、経済生活全般の変容などに由来する変化)に注目して、現代のアフリカ社会で生き、変化しているものとしての、音文化の様相を明らかにすることに努めた。

平成26年度

消滅の危機に瀕しているアフリカの無形文化遺産が、現在以後の社会で存続し得る条件および現代社会において果たする役割を、現地調査に基づいて地域社会との関係で追求し、現地人当事者の認識や主張も明らかに

しつつ、ユネスコの保存計画が求める条件とも照合して、その問題点をアフリカ諸地域間で比較検討した。

具体的には、旧モシ王国（ブルキナファソ）の太鼓言葉、旧ダホメー王国（ベナン）の歌舞、マンデ・ポップスを担うグリオ（語り部）の音楽表現、マンデ社会に共有されているスンジャタ叙事詩、タンザニア中央部の民族ゴゴの伝統芸能 ngoma、エチオピア北部高原を広範に移動して歌唱を行なう世襲の吟遊詩人集団ラリベラ、ジンバブエ共和国における楽器ンピラなどを調査対象として、一次資料の収集を行った。

平成 27 年度

平成 26 年度中に予定していた報告書の刊行がずれ込んだため、補助事業期間を延長し、研究成果のとりまとめを行った。

前年度までの調査に基づき、本研究課題の総まとめとして詳細な報告書("THE TECHNIQUES OF THE BODY", "CULTURES SONORES D'AFRIQUE")を作成した。この報告書は調査対象国や世界の関連研究者及び研究機関に配布し、調査成果の還元を行うことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 25 件)

川田順造 道具の供養をめぐって、道具学論集、査読有り、21 巻、2016、28-39

川田順造 山鹿素行、法政大学国際日本学研究所研究成果報告書『国際日本学』、査読無し、13 巻、2015、67-78

鈴木裕之 アビジャンの音楽産業とグリオの技芸：近代化される誉め歌の伝統、教養論集（国土館大学）、査読有り、78 巻、2015、1-34

川瀬慈 コミュニケーションを媒介し生成する民族誌映画 -エチオピアの音楽職能集団と子供たちを対象とした映画制作と公開の事例より-、文化人類学、査読有り、80 (1) 巻、2015、6-19

Tsuruta, Tadasu Contemporary Roles of Sound Culture among the Gogo Society, Central Tanzania: Focusing on Female Ngoma Performances, Junzo Kawada (ed.) Cultures sonores d' Afrique、査読無し、15、2015、37-54

Tsuruta, Tadasu Changing Social Roles of Gogo Sound Culture in Central Tanzania: With Special Reference to the Development of "Cultural Troupes", (日本文化人類学会編) Japanese Review of Cultural Anthropology、査読有り、15、2014-169-183

Itsushi Kawase The Amharic Oral Poetry by Lalibaloc, Japanese Review

of Cultural Anthropology、査読有り、15、2014、185-198

川瀬慈 音、身体、イメージの新たな関係 Sensoryscape from Gondar のこころみ、年報カルチュラル・スタディーズ、査読有り、2、2014、198-203

鈴木裕之 ギニアにおけるマンデ音楽の変化と継続性：あるグリオー族の場合、教養論集（国土館大学）、査読有り、76、2014、1-26

Junzo Kawada Notes on the Drum Language of the Ancient Mossi Kingdoms (Burkina Faso), Japanese Review of Cultural Anthropology、査読有り、15 巻、2014、3-20

川田順造 「アフリカの歴史と文化・風土・そして日本」(インタビュー記事)、建築雑誌、査読無し、128 巻 1650 号、2013、8-13

川田順造 勝又誠 「アフリカの光と影 人類史の記憶から未来へ」(対談)、神奈川大学評論、査読無し、第 76 号、2013、22-44

川瀬慈 「アーカイブ映像の創造的活用 にむけて - エンサイクロペディア・シネマトグラフィカを事例に -」、民博通信、査読無し、141 巻、2013、2-7

Tadasu TSURUTA Changing Process of the Agro-pastoral Economy of the Iraqw in Northern Tanzania、Journal of Swahili and African Studies、査読有り、24 号、2013、106-120

MATSUHIRA, Yuji The rain Making Ceremony in the Nyandoro Region, Zimbabwe, Religious Dynamics in Africa、査読有り、1 巻、2013、165-182

松平勇二 ジンバブエにおけるスングーラ・ミュージックの期限、イスラーム圏アフリカ論集()、査読無し、2013、175-198

鈴木裕之 「アフリカ音楽事情(4) ワールド・ミュージックの時代」、音楽文化の創造、査読無し、No.66、2013、26-27

鈴木裕之 「アフリカ音楽事情(3) ストリートから生まれる新しい音楽」、音楽文化の創造、査読無し、No.65、2012、34-35

鈴木裕之 「アフリカ音楽事情(2) メッセージを伝える音と声」、音楽文化の創造、査読無し、No.64、2012、26-27

鶴田 格 フェア・トレード商品の生産農家の多様性に関する一試論：地域間比較とサブシステムの視点から、農林業問題研究、査読有り、第 48 巻第 2 号、2012、332-337

[学会発表](計 27 件)

Itsushi Kawase Towards a New Age of Anthropology with Visual Practice -Cases from Japan-, International Conference on Anthropology of North

East Asia (招待講演)、2015年06月19日、済南市(中華人民共和国)

鈴木裕之 「私」と「彼ら」をつなげる

原理：自分自身の結婚の事例から、第52回日本アフリカ学会学術大会、2015年05月23日、犬山国際観光センター(愛知)

Junzo Kawada Speech and Song: the case of Mossi, Burkina Faso. 23rd ICTM colloquium、2015年05月21日、Paris(France)

Itsushi Kawase Anthropological Knowledge in Audio-visual Storytelling, The 8th IRAN International Documentary Film Festival CinemaVerite(招待講演)、2014年12月01日、Documentary & Experimental Film Center, Tehran(Iran)

Tadasu Tsuruta Contemporary Roles of Sound Culture among the Gogo Society, Central Tanzania, IUAES Inter-Congress 2014、2014年05月16日、幕張メッセ(千葉)

Junzo Kawada How Mossicourt drummers transmit royal genealogy by means of their fingertips rather than orally, IUAES Inter-Congress 2014、2014年05月16日、幕張メッセ(千葉)

鈴木裕之 Multidimensionality of world music: the case of Mande pop music, IUAES Inter-Congress 2014、2014年05月16日、幕張メッセ(千葉)

川瀬慈 Prospects and Challenges of Ethnographic Filmmaking in Ethiopia, 2013年11月18日、ハンブルグ(ドイツ)

Tsuruta, T. A Changing Process of Agro-pastoralism in the Gogo Society, Central Tanzania, 6th International Conference on African Moral Economy: Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa, 2013年08月27日、Tanzania

日、Tanzania

川田順造 「音文化」は、「無形文化遺産」であるか、ありうるか?、日本アフリカ学会第49回学術大会、2012年5月27日、国立民族学博物館(大阪)

国立民族学博物館(大阪)

鈴木裕之 アビジャンの音楽産業とグリオの伝統的技芸：近代化の中で継承される<誉め歌>の伝統、日本アフリカ学会第49回学術大会、2012年5月27日、国立民族学博物館(大阪)

鶴田格 アフリカの「音文化」は、「無形文化遺産」であるか、ありうるか? その3：タンザニアにおける女性ダンス結社の歌の事例、日本アフリカ学会第49回学術大会、2012年5月27日、国立民族学博物館(大阪)

松平勇二 ジンバブエにおけるンビラ音楽の継承、日本アフリカ学会第49回学術大会、2012年5月27日、国立民族学博物館(大阪)

〔図書〕(計6件)

鈴木裕之 「恋する文化人類学：結婚を通して異文化を理解する」、世界思想社、2015、273

分藤大翼・川瀬慈・村尾静二 「フィールド映像術」、FENIC100 万人のフィールドワーカーシリーズ15、古今書院、2015、212

鈴木裕之・川瀬慈 「アフリカン・ポップス！文化人類学からみる魅惑の音楽世界」、明石書店、2015、272

鈴木裕之 「文化の構成要素としてのドラッグ：アビジャンのストリート文化における大麻」落合雄彦(編)『アフリカ・ドラッグ考：交錯する生産・取引・乱用・文化・統制』、2014、245、27-53

川田順造 「富士山と三味線 - 文化とは何か」、青土社、2014、294

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

取得状況(計 件)

〔その他〕 ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川田 順造 (Kawada Junzo)
神奈川大学・付置研究所・研究員
研究者番号：50107835

(2)研究分担者

鈴木 裕之 (Suzuki Hiroyuki)

国土館大学・法学部・教授

研究者番号：20276447

川瀬 慈 (Kawase Itsushi)

国立民族学博物館・大学共同利用機関等の

部局等・助教

研究者番号：30633854

鶴田 格 (Tsuruta Tadasu)

近畿大学・農学部・准教授

研究者番号：60340767

(3)研究協力者

松平 勇二 (Matsuhira Yuji)

国立民族学博物館・外来研究員

(日本学術振興会・特別研究員(PD))